

第3回ビジョン懇談会（書面） 意見一覧

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見種別	意見等	担当部会	意見への対応	反映
1	27	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野	1211 子育て支援	意見	期待される効果に「また、保育士（園長、主任保育士）の資質向上が図れます。」とあるが、事業概要で何により資質向上を図るのかを具体的に示すべきである。	医療・福祉	校正段階での削除漏れであったため、「また、」以下を削除します。	○
2	30 31	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野	1231 健康づくり	意見	「こころの健康講座」の開催は、以前の1回限りの大がかりな「講演会」より、参加しやすい「講座」で複数回開講する方が効果が上がると考える。	医療・福祉	現在、伊賀市では「こころの健康」をテーマとした講座を各種団体や地域住民を対象に実施しています。今後、定住自立圏内で講座の内容や実施方法について地域特性を踏まて実施方法を検討していきます。	
3	44	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野	1521 ごみの資源化	意見	次の課題として、ゴミを生まない、ゴミを作らない社会を目指す（大変ですが）企業や商店との提案連携を強く求めます。 今や、売られている大半が使い捨て傾向になり、売れば何でも良いという価値観を見直す社会になって欲しいと思います。	環境	「再使用」「再利用」という、ゴミにしない取り組みと合わせて、ご意見のとおりゴミ（廃棄物）のでにくい商品の企画設計を促していくことも重要な取り組みと考えます。 各市町村で作成する「一般廃棄物処理基本計画」にも事業所の役割の一つとして同様の趣旨が記されています。連携した取り組みについて、協議検討していきます。	
4	34	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野	1321 文化・芸術振興	意見	事業概要にアウトリーチ事業とあるのは、利用者に寄り添ったよい手法である。	教育	圏域内の人が文化芸術に触れる機会の創出に向け、文化団体への働きかけを続けていきます。	

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見種別	意見等	担当部会	意見への対応	反映
5	34	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野	1321 文化・芸術振興 1322 スポーツ振興	意見	昔合併前に島ヶ原では、近隣地域とスポーツ交流があった。スポーツ交流など基本的な話し合いや協議を行政間で詰めて欲しい。絆づくり事業でも、村の職員が同席しているが、権限のない自治協では話にならない。地域間の関係が悪くなる危険性を感じた場面を経験した。慎重であるべきである。	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツ振興の為、スポーツ推進委員や各種関係団体が主体的に活動を行えるよう、各種行事の情報提供や意見交換の方法などについて継続的に話し合いの場をもちます。 ・伊賀市地域絆づくり補助金事業は、住民自治協議会が安心・安全な地域社会の実現のために、他の協議会等とのコミュニティ醸成を図る事業等を実施するに当たり交付するものであり、住民自治協議会が主体となり事業を実施していただくものです。 	
6	55	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	2. 結びつきやネットワークの強化に係る分野	2213 ICTを活用した児童生徒の交流	意見	「ICTを活用した児童生徒の交流」事業の新設は、実現しやすく、小中学校時から圏域内の連携意識を育てていくことに繋がる良い取り組みである。	教育	令和3年4月より各校にタブレット端末を導入し、現在活用を促進しているところです。今後、圏域内においてICTを活用したオンラインによる交流を進めていきたいと思えます。	
7	55	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	2. 結びつきやネットワークの強化に係る分野	2213 ICTを活用した児童生徒の交流	意見	距離をなくしたタブレット利用だけにとどまらず、タブレットから生まれた交流をきっかけに実際の生の交流につながれば更に素晴らしいと思えます。	教育	ご意見のとおり、ICTを活用した交流から、実体験の交流へと結びつけられるよう、今後可能性を模索していきたいと思えます。	
8	35 36	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野	1332 図書館運営	意見	目標値を達成するためには、今後一層高齢者率が高くなり図書館への移動手段が少なくなる困難な状況下、連携町村の図書室等に伊賀市図書館からの移動図書館や巡回図書館等の導入を考えられないだろうか。	教育	図書館への移動が困難な方を含め、圏域住民が等しく図書館サービスを受けられるよう、様々な方法を早急に検討していく必要があると考えています。	

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見種別	意見等	担当部会	意見への対応	反映
9	32 53	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野 2. 結びつきやネットワークの強化に係る分野	1311 高校の通学範囲の拡大要望 2213 公共交通ネットワークの構築	意見	伊賀市内の高校の人気の低下している。旧上野市内の子どもでも、圏域外の高校へ進学している。それは定員割れをおこなっている高校や大学進学率を見ても分かる。魅力ある高校をつくることである。笠置、南山城や伊賀市北部地域では、JR関西本線にもっと力を入れるべきである。通学の便利が重要である。併せて、公共交通の（バス）の確保が重要である。	教育 交通・情報	<ul style="list-style-type: none"> 三重県教育委員会主催で、毎年、伊賀地区高等学校活性化推進協議会を実施しています。この協議会では、学識経験者、有識者、PTA関係者、市教委教育長、小中学校長代表、教員代表、県立学校長代表が、幅広く意見の交流を行い、高等学校の活性化に向け協議を行っています。 沿線市町村（伊賀市・笠置町・南山城村含む）で構成する関西本線木津亀山間活性化同盟会において、JR関西本線の利用促進に取り組むとともに、利用者の多くが高校生など通学利用であることから、JR西日本に対して利便性向上や将来に渡る維持存続について要望活動を行っています。 また、バスについても、各圏域において公共交通（バス）の維持存続に向けた利用促進等に取り組んでいます。	
10	51	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	2. 結びつきやネットワークの強化に係る分野	施策① 地域公共交通対策	質問	KPI現状値が令和元年度になっているのはなぜか？	交通・情報	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、令和2年度の公共交通利用者は大きく減少しました。本計画期間中にコロナ禍以前の利用者数に戻すことを目標に設定したため、KPI現状値をコロナ禍の影響を受けていない令和元年度としました。	
11	61	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	2. 結びつきやネットワークの強化に係る分野	2512 関係人口創出	意見	山添村では若者定住に取り組み就職・結婚などに一時的にでも入居可能な住宅の建設を考えています。	交流	こういった取り組みが山添村を含め、圏域への若者定住に繋がることを期待します。	
12	40	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野	1431 広域観光	意見	圏域全体の観光につなげる工夫に期待します。	産業振興	新たな共生ビジョンでは広域観光を新たな取り組みと位置づけており、圏域に有する自然や歴史文化等の多様な地域資源の情報発信や体験・学習型の観光プログラムの創出・提供に取り組み、周遊性向上と滞在時間や観光消費額の増加を図っていきたいと考えています。	

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見種別	意見等	担当部会	意見への対応	反映
13	59	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	2. 結びつきやネットワークの強化に係る分野	2411 交流促進施設維持管理	意見	「道の駅いが」・「道の駅あやま」と伊賀市に2箇所書かれているが、よく似た性格の「さるびの・やぶっちゃん」を入れるべきである。周辺部こそ重要である。	産業振興	伊賀市の2箇所の道の駅は、地域資源を活用した集客交流施設として、地域の歴史・文化・観光情報などを発信し、地域産業の振興などを図ることを目的に設置された施設で、市の予算も投入して運営しています。ご意見のありました2箇所の温泉施設については、現在、民間に譲渡することが検討されているため、当計画には掲載することができないと考えます。今後、民間経営になったとしても、集客施設としては変わりはありませんので、特産品や観光などのPRについては連携を図っていきたいと思っています。	
14	37～39	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野	1411 雇用、勤労者対策 1421 企業立地促進事業	意見	人口創出においては、地域内に職場を創り、住み良い住宅があり、まずは人口の流出を食い止め、それから移住（空家対策を含め）などに力を入れてはどうですか。	産業振興	ご意見のとおり、人口の創出または流出を抑制するためには、仕事の創出だけでなく、生活機能が充実し安心して暮らせる圏域づくりが必要です。そのために、圏域市町村間で相互に協力しながら空き家対策をはじめ連携事業に取り組みます。	
15	32	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野	1311 高校の通学範囲の拡大要望	意見	事業名が「進学可能な県立高校の紹介」と改められ、具体的かつ実効性のあるものとなった。	事務局	推進協議会において、「子どもたちの将来における可能性を担保する必要がある。」との意見があり、素案→中間案において、事業名を「進学可能な県立高校の紹介」→「高校の通学範囲の拡大要望」に再度修正しました。	
16	28	第6章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組み	1. 生活機能の強化に係る分野	施策② 高齢・障がい福祉事業の充実	質問	KPI「認知症サポーター登録者数」現状値の数値と資料2-2の数値はどちらが正しいのか。	事務局	×素案（資料3-1） OKPI一覧（資料3-2） ⇒中間案において修正済み。	

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見種別	意見等	担当部会	意見への対応	反映
17	3	第2章 圏域の概況	1.圏域を構成する市町村の概要	過疎	意見	<p><過疎について> 圏域の中で、南山城と島ヶ原は近接している。今年度島ヶ原は過疎地域に指定された。P2の中段に、「地方版総合戦略」を策定し、人口減少社会に歯止めをかけるとある。過疎債を活用して総合計画をたて、総合戦略の目標達成するように考えたい。伊賀市の周辺地域の、人口減少のためには地域振興を講じる必要がある。もともと定住圏域地域では生活関係が深く、共通の基盤があり、生活環境の保証を講じることである。</p>	事務局	ご意見のとおり、各市町村においては、総合戦略に基づく人口減少対策に取り組むとともに、圏域としては、圏域市町村が相互に連携し、生活基盤の確保・充実を図り、住み続けたい地域で暮らせる圏域をめざします。	
18	16	第3章 第1期の振り返り	2.新型コロナウイルス感染症に対する取り組み		意見	<p>昨年からのコロナ感染症に対する圏域間での協議がなされたのか？圏域証やプレミアム食事券について、どうであったか検証が必要と思う。 また、医療の脆弱な圏域でクラスターが発生すると取り返しがつかない。特に「絆づくり事業」について、人流を抑えることが指摘されているなか、行政間で協議が必要である。伝統的な行事でも縮小している中、やりたがっている一部の連中がいる。多くの住民がイベントを嫌がっている。</p>	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域市町村において、新型コロナウイルス感染症に対する各種支援策について情報交換を行いました。 ・圏域証の発行については、圏域住民の皆さんが安心して買い物等従来の生活を送ることができる”証”として効果があったのではないかと思います。また、当ビジョン懇談会においては、定住自立圏が便利なものだという”見える化”の一つになるとともに、圏域住民の皆さんへのPRになったという意見をいただいています。 ・伊賀市プレミアム付食事券については、連携町村から72セットを購入いただきました。 ・各地域で開催する伝統行事等については、各地域における課題を踏まえ、地域の中で行事のあり方を検討し、地域の実情に即した内容に変えていく必要があるのではないのでしょうか。 	
19	17	第4章 圏域の将来像	1.圏域の将来像	<下から9行目>	質問	<p>「新たな危機を圏域力を高めるチャンス」とは具体的に何を指すのか。ここの「力」とは何を言っているのか。</p>	事務局	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により社会全体が疲弊し、当圏域においても住民の暮らしに大きな影響が出ています。しかしながら、この危機をきっかけとして、DXの推進等でこれまでのやり方や考え方を変換し、より住み良い圏域を目指すことを表現しています。また、「圏域力」とは、圏域がもつポテンシャル（潜在能力）のことで、住民の皆さんも一緒になって、生活圏を共有する地域として盛り上げていこうという思いを意味しています。	

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見種別	意見等	担当部会	意見への対応	反映
20	17	第4章 圏域の将来像	1.圏域の将来像	<下から7行目>	意見	「デジタルトランスフォーメーション（DX）」がまだまだ一般的に使われる言葉ではないため、5行下の「エリアプライド（圏域の誇り・自尊心）」のように、（ ）内に適切な日本語を併記してほしい。	事務局	DXの概念「ICT（情報通信技術）の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」を注釈へ記載します。	○
21	20	第4章 圏域の将来像	4.中心市と連携町村の役割	<上から5行目>	意見	<伊賀市に対して> 「中心市である伊賀市は・・・（中略）・・・活性化等に取り組みます。」とあるが、全体的に見れば、上野中心的な発想である。上野を富士山のように考えその廻りに小さな3つの山を置くような考えである。伊賀市内の周辺部に多くの小さな山がある。それらが元気になるような方策がない。痩せた富士山だけが残ったのでは、全部倒れる。	事務局	決してそのような考え方ではありません。 定住自立圏は、生活に必要な都市機能について一定の集積があり、近隣市町村の住民もその機能を活用しているような都市機能がスピルオーバーしている中心市と経済、社会、文化又は住民生活等において密接な関係を有する市町村で構成し、協定に基づき、相互に役割を分担し、住民が安心して暮らせる圏域づくりを進めるものです。	
22	37～42				質問	政策（4）産業振興のKPI現状値と目標値及び事業費が、他の政策の事業と異なる年度になっているが、理由があるのか？	事務局	素案をお示しした段階では、部会において作成中でしたが、中間案において目標値設定の上パブリックコメントを実施しました。	
23	37～42、58～59				質問	以下のページの成果を示す指標（KPI）の目標値が令和3年度になっている。 37ページ（雇用、勤労者対策） 38ページ（企業立地） 39ページ（観光戦略、着地型観光） 41ページ（地場産業振興） 42ページ（鳥獣害防止） 58～59ページ（交流促進施設維持管理）	事務局	「NO.22」と同じ	

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見種別	意見等	担当部会	意見への対応	反映
24	58 59			2411 交流促進施設維持管理	質問	KPI現状値と目標値及び事業費が、他の政策の事業と異なる年度になっているが、理由があるのか？また、南山城村の道の駅の現状値だけが創設中になっているのはなぜか？	事務局	「NO.22」と同じ	
25	—			全体	意見	これまでは、あまり知ることがなかった互いの情報交換が行われてきたかと思いますが、魅力あふれる圏域を創り出すには、さらなる工夫が必要かと思われます。そこには様々なところで一緒に行動する交流が一番のように思われます。	事務局	ご意見のとおり、圏域全体で相互に連携し、魅力ある圏域とするために、行政だけでなく、住民とおしの交流が生まれることも重要です。	
26	—			全体	意見	全体的に発想が固定化しており、チビチビな感じがする。ビジョンなんて言えるかな？伊賀市としての統計や資料は全体として括っているが、分野によっては中身を分析した出し方が必要である。	事務局	共生ビジョンは、協定項目に基づき策定されるものです。	
27	—			全体	意見	事業の統合により、すっきりした。	事務局	第1期共生ビジョンの取り組みの効果検証を踏まえ、圏域内で相互に補完すべき連携事業という観点から検討を行いました。 また、第1期の取り組み内容で細かく事業を設定していたものについては、第2期において、もう少し大きな枠組みで取り組むこととし、事業の見直しを行っています。	

番号	ページ	施策等	項目	箇所	意見種別	意見等	担当部会	意見への対応	反映
28	48			1612 河川整備事業	意見	廃止となっておりますが、一步前進した事業だと思しますので、逆に連携のノウハウを伺って学ぶことも必要な気がします。	事務局	素案では事業廃止としていましたが、中間案において事業内容を変更の上、存続することとしました。木津川の河川改修など治水対策や砂防事業の要望を行い、地域の安全の向上に取り組みます。	